



雑巾を平尾生徒会長に手渡す坂井会長（右）

町内のボランティアサークルななかまどの会は、毎年の恒例活動となっている雑巾とタオルの

寄贈を今年も実施しました。

7月15日には、坂井千枝会長をはじめ会員3人が洞爺中学校を訪れ、生徒の休み時間を利用して雑巾50枚を、生徒会長の平尾渚羽（みう）さんに手渡しました。

続いて同22日には、介護老人福祉施設幸楽園を訪問し、タオル・雑巾それぞれ100枚を寄贈。代表して受け取った吉田光子さんが「誠にありがとうございます」と感謝の言葉を述べました。

ななかまどの会奉仕活動 学校、施設に雑巾、タオル寄贈

レイクスポーツフェスティバル マリンスポーツで夏を楽しむ

教育委員会が主催する夏の恒例行事「レイクスポーツフェスティバル」が、7月18日洞爺地区カヌー艇庫前で行われました。

曇り空の中、約50人の小中学生が参加して、カヌーやバナナボートなどの遊びを楽しみました。

大人気のバナナボートでは、まだ冷たい湖水に振り落とされるパフォーマンスに歓声を上げていました。

昼食には、ジンギスカンが振る舞われ、おなかをすかせた子どもたちが焼き台を囲み、肉をいっぱいほおっていました。



バナナボートを楽しむ子どもたち

縄文人の暮らしを体験 第7回縄文まつり

第7回縄文まつり（同実行委員会主催）が、7月20日、入江貝塚公園で開催され、約200人が来場し、火おこし、飾り炭づくりなどの縄文体験や縄文ミニゲーム、縄文選手権などの多様なアトラクションで楽しい一日を過ごしました。

たいまつによる点火パフォーマンスでオープニング。火おこしコーナーでは、子どもや大人たちが、なかなかおきない火に悪戦苦闘しながら、果敢に挑戦していました。

昼食時には、縄文カレーなどが振舞われ、好評を博していました。



縄文まつりの開催宣言を行う実行委員会のメンバー

相互交流を行っている友好都市三豊市の小学生が、7月24日から27日まで



サイ回展望台で記念撮影に臨む両市町の児童たち

3泊4日の日程で来町しました。訪れたのは、「ふるさと・ふれあい・フレンドリーツアー」の児童18人。

とうや小学校の児童との交流をはじめ、開拓記念碑の「拓土創始之碑」や火山科学館、洞爺湖芸術館などを見学。そば作りやじゃがいも掘りなども体験し、洞爺湖町での短い生活を満喫しました。

25日には、洞爺夏まつりに参加し、練り歩く太鼓台などを見学し、改めて自分たちの故郷との関係の深さを感じていました。

三豊市の小学生来町 地元小学生と交流深める



まちのわだい